

二〇二三年度

和歌山信愛中学校

入学試験 A日程（午前）

国語（六〇分 一〇〇点）

受験上の注意

- 一 この問題冊子は1ページから21ページまであります。  
開始のチャイムが鳴ったら、確認して始めなさい。
- 二 受験番号は、問題冊子と解答用紙の両方に書きなさい。
- 三 解答は、すべて解答用紙に書きなさい。
- 四 終了のチャイムが鳴ったら、問題冊子の上に、解答用紙を  
開いたまま裏返して置きなさい。

受験番号

（解答は、句読点や記号も一字分と数えて記入すること。）



【一】 次の問いに答えなさい。

問一 次の①～③の——線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。また、④～⑧の——線部のひらがなを漢字に直しなさい。

- ① 車窓からのながめを楽しむ。
- ② 追突防止のため、停止線を設ける。
- ③ 帰郷の都度、彼と会う約束をする。
- ④ その作家はどくそ的な作品を次々と発表した。
- ⑤ 彼女の美しいように目に目をうばわれた。
- ⑥ 紀ノ川りゅういきの植生を調べる。
- ⑦ ゴミを路上にすてないでください。
- ⑧ その後のしようそくを尋ねる。

問二 次の①～④の各文について、——線部の主語を~~~~線部の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ① 今日は 気温が とても 低い。
- ② 彼女の 目に なみだが にじん で いる。
- ③ 日照り続きで この 土地には 草さえ 生えない。
- ④ ああ ポチこそ 私の 帰りを 待つて いて くれる 唯一の 家族だ。

問三 次の資料 1・資料 2 を見て、後の問いに答えなさい。

(1) 資料1と資料2のグラフの特徴を説明したものとして正しいものをそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 時間がたつにつれて、数値がどのように変化しているかが分かる。

イ 縦軸と横軸があらわす項目が、反比例の関係にあることが分かる。

ウ 量や割合の数値を比較でき、どこが多くどこが少ないかがすぐに分かる。

エ 全体に占める割合を面積で表し、一見して割合の高いもの、低いものが分かる。

(2) 資料1・資料2の説明として正しいものを次のア～カの中より三つ選び、記号で答えなさい。

ア どの年代でも男性の方が女性より欠食率が高い。

イ 男女とも、年齢が高くなるにつれて欠食率はだんだん低くなっている。

ウ 男女とも七〇歳以上の高齢者の朝食欠食率が最も低い。

エ 女性全体の欠食率は約一割である。

オ 小学生・中学生とも、欠食率が年々高まっている。

カ 小学生と中学生を比べると、どの年度の統計も中学生の方が欠食率が高い。

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ずいぶん前のことになるが、私のところの大学院にイタリアからの留学生が在籍していた。口を開くと「そんなんわかりませんわあ。」などと流暢な京都弁を話す、実にユニークな女性であった。

その留学生が、外国人から見れば日本人は驚嘆すべき才能を持っている、と心から感心したように言っていた。理由を聞いてみると、「だって『動物園にライオンがいる。』という文を、ほとんどの日本人はほぼ一〇〇パーセントの割合で同じように書くやないですか。」と言う。

ここで彼女が一例としてあげた「動物園にライオンがいる。」は非常に簡単な文ではあるが、間違いない日本語のセンテンスである。さて、いまの小学校では「園」を二年生で、「動」と「物」を三年生で学習することになっている。A、三年生か四年生くらいの小学生なら、この文を漢字仮名交じり文で書けるだろう。

その留学生は、「この文を小学生以上の日本人ならだれでも、『動物園』を漢字で、『ライオン』をカタカナで、そしてそれ以外の文字をすべてひらがなで書くにちがいない。日本の人口を仮に一億二千万人とすれば、この文章が書ける人はおそらく一億人はいらるだろうが、一億人もの日本人が、ほぼ例外なく、漢字とひらがなとカタカナという三種類の異なった文字を同じように使い分けて書く。いったい①なぜそんなことをするのか。そしてなぜそんなことが可能なのか。ヨーロッパでは絶対に考えられず、外国人の理解を越えている。」と言うのである。

聞いていて、なるほどと思った。耳慣れない外来語を含んだ文章などは別として、ごく一般的な文章なら、私たちはどの言葉を漢字で書き、どの言葉をひらがなにし、どの言葉にカタカナを使うかということにそんなに苦労しない。「新しいグローブを買う。」だって、②きょうふじょうがこんざつしている。だって、三種類の文字をだれもが同じように使い分けるにちがいない。そして、そのことについて、私たちは特別にすばらしい、

B

高度なことをしているとは思わない。

C

、ただ一種類の文字だけ

を使って言語を表記する外国人の目には、実は私たちはすごいことを平気でなしとげているように見えるらしい。

「動物園にライオンがいる。」という文では、全国民だれ一人としてほとんど例外なく自然に、漢字とひらがなとカタカナを交えた同じ書き方をするのだが、それはおそらく、それがもつとも理解しやすい日本語の書き方であるからにちがいない。

しかし、日本語における文字の使い分けは、いつの場合でもそのように単純ではなく、<sup>③</sup>表記に揺れがあることもまた珍しくない。

まず、日本語の単語には、漢字で書くか仮名で書くかが一定していないものも多くある。たとえば、山田さんが、

「きょうの晩ごはんはタケノコごはんとホーレンソウのおひたしです。」

と書く文を、田中さんは、

「今日の晩御飯は筍御飯と菠稜草のお浸しです。」

と書くかもしれない。英語で「spinach」という野菜を日本語でどう書くかは、人によってまちまちである。私自身は普段は「ほうれん草」と書いており、おそらくそれが一般的かとは思いますが、そのほかにも「菠稜草」や「鳳蓮草」という難しい漢字を使う書き方もあるし、近所のスーパーのちらしには「法蓮草」というとんでもない当て字が書かれている。そして、私たちはまったく意識しないのだが、その野菜がどのように書かれていても、私たちはちゃんとそれが「spinach」であることを理解する。これは実は驚くべきことなのである。

さらにまた、特定の単語については漢字で書く場合と仮名で書く場合で意味が異なることすらある。たとえば、「物事を適当に

処理する。」と「物事をテキストに処理する。」という二つの文を比較すると、日本人には④あきらかにそのニュアンスがちがうことがわかるはずだ。

いまでは小学生までもが持っているスマートフォンとも呼ばれる携帯電話のことを、カタカナで「ケータイ」と書いているケ-スを近ごろよく目にする。とりわけ若者向けの雑誌などでその書き方をよく見かけるが、それは本来は漢字で書くことばをあえてカタカナで書くことで、書き手が通常とは異なるなんらかのニュアンスを表現しようと企図しているからにほかならない。

日本語に、このような表記の揺れがあることを、日本語には正書法が確立されていないと批判する意見もあるが、そのことを逆の面から見れば、自分が伝えたい内容を、漢字で書くか、カタカナで書くか、ひらがなで書くかという、文字レベルで表現できるということにほかならない。これは他の言語には見られない、感性を表現する上できわめてユニークな方法である。

(阿辻 哲次 『日本語文字・表記の難しさとおもしろさ』より)

問一 本文中の **A**、**B**、**C** に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、同じものを二度選んではいけません。

- ア なぜなら      イ だから      ウ さて      エ あるいは      オ しかし



問二 —— 線部①「なぜそんなことをするのか」とありますが、その理由を筆者はどのように考えていますか。「そんなこと」の内容を明らかにし、「く」と筆者は考えている。」に続く形で、本文中の言葉を使って、四十五字以内で答えなさい。

問三 —— 線部②「きゃんぶじょうがこんざつしている」とありますが、これを本文の主旨に従って書き換えなさい。

問四 —— 線部③「表記に揺れがあることもまた珍しくない」とありますが、このことについて次の(1)・(2)に答えなさい。

(1) 「表記に揺れがあることもまた珍しくない」のはなぜだと筆者は言っていますか。本文中から四十字以内の言葉を、「くから。」に続く形で二カ所ぬき出して答えなさい。

(2) 「表記に揺れがある」ために、どのような利点があると筆者は考えていますか。本文中から五十字以内の言葉を、「く点。」に続く形でぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問五 ——線部④「あきらかにそのニュアンスがちがう」とありますが、このことについて説明した次の文の（  
に当てはまる言葉を考えて答えなさい。

「適当」と漢字で表記した場合は、「物事を目的や要求などにうまく当てはめて処理する」というニュアンスになるが、  
「テキトー」とカタカナで表記した場合は、「物事を（  
）処理する」というニュアンスになる。

問六 本文を読んだ信子さんと愛子さんは、ここに書かれている内容に興味を持ち、もっと調べてみようと思つて、図書館でこの  
本文が記載されている本（『日本語文字・表記の難しさとおもしろさ』を借りてきました。そして、そこに書かれていた次の  
文章について、話し合いました。これを読んで、後の(1) (3)の問いに答えなさい。

《文章》

日本語は、ほとんどの場合において、一つの文のなかに漢字とひらがな・カタカナ、それにローマ字の四種類を自  
由に使い分けるといふ、世界でも非常に珍しい特殊な表記システムをもっている。このように複数の文字を使って言  
語表記するシステムには、日本語のほかに韓国語があるくらいしか思いつかない。

その韓国語にしても、これまで長い時間にわたつて「ハングル専用化」政策が遂行されてきた。それに対する見  
直し運動も近年にはさかんにおこなわれているが、しかし韓国を旅行した経験のある方ならよくご存じの通り、現実

の街中では商店や食堂で漢字を見かけることはきわめて少なく、ほとんどハングルしか使われていない。だがそれでも地下鉄やバスの路線図に表示される地名とか、駅に掲げられる駅名標などではハングルの他にローマ字と漢字による表記が併記されているし、その気になれば、漢字とハングルを混ぜて韓国語の文章を書くことも可能である。

ハングルはもともと漢字の学習が困難な階層や庶民でも自分たちの言語の文章を読めるようにとの目的をもって制作を命じたものであった。だから、その成り立ちから言えば、本来的には同一文中に漢字と併用することを前提とするものではなかった。

ハングルが生み出されたことによつて民衆の識字率は向上し、さらに優秀なシステムもあつて、ハングルだけでさまざまな文章が書かれるようになった。その後、漢字とハングルを交えて書いた「漢字ハングル交じり文」という形式が飛躍的に普及した時期もあつたが、その「漢字ハングル交じり文」にしても、使われているのは漢字とハングルだけであるのに対して、日本語の「漢字仮名交じり文」では、漢字のほかにひらがなとカタカナの二種類の表音文字が使われている。そう考えれば、日本語の表記システムは実は世界でもっとも複雑な方式だと言えるのだが、しかしそのことについて大多数の日本人はそれを意識することなく、きわめて普通の感覚で文字を使い分けている。

## 《話し合い》

信子さん 複数の文字を使って言語を表記するシステムは、世界中で日本語と韓国語だけだなんて知らなかった。

愛子さん でも、その韓国語も「ハングル専用化」が進んでいるんですよ。それってなんかうらやましい。

信子さん どうして？

愛子さん 日本語もひらがなかカタカナの一種類になれば、もう漢字の勉強しなくてすむのに……。

信子さん でも、そんなことになったら、とつても読みづらしいし、意味が分からなくなってしまうんじゃない？

愛子さん そうか。日本語には <sup>II</sup>音が同じで意味がちがう言葉がたくさんあるものね。

信子さん それに、授業で習った文章にもあったように「本来は漢字で書くことばをあえてカタカナで書くことで、

書き方が通常とは異なるなんらかのニュアンスを表現」するなんてこともできなくなってしまうよ。

愛子さん そうだね。やっぱり日本語は今のままがいいのか。

信子さん そうよ。筆者も言っているように、日本語は 、この日本語を大事にしようよ。

- (1) 線部 I 『ハングル専用化』政策が遂行されてきた」とありますが、それはどのような目的のために行われたのですか。《文章》中から四十字以内でぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。

- (2) 線部 II 「音が同じで意味がちがう言葉」を何といただけますか。次の中から一つを選び、記号で答えなさい。

ア 類義語      イ 擬音語      ウ 同音異義語      エ 第一言語      オ 故事成語

- (3) 《話し合い》の中の  に当てはまるものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 正書法が確立されていて、それを踏まえていけば、自由に何種類もの文字を使い分けられるんだから  
イ 何種類も文字があるといっても、漢字で書く場合と仮名で書く場合では意味が異ならないんだから  
ウ 「菠稜草」や「鳳蓮草」という漢字を覚えなければ、それが「ほうれん草」だとわからないけれど  
エ たしかに、ごく一般的な文章であつたとしても漢字とカタカナを使い分けることに苦労はするけれど  
オ 他の言語には見られない、感性を表す上できわめてユニークな方法を持っているんだから

【三】 次の文章は、宮下奈都の小説『スコールNo. 4』の一節で、姉の「私」（麻子）が、妹の「七葉」との中学生時代のやりとりを回想している場面です。次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

5 私と七葉は滅多に喧嘩をしない。喧嘩をするような種がない。そもそもふたりとも怒りっぽい性質ではない。難を言うなら七葉は少々頑固なところがあるけれど、そして七葉から見れば私は少々意気地がないかもしれないけれど、そのせいで喧嘩になるわけじゃない。いつも一緒にいる私たちを見て、真由も未知花ちゃんも首を傾げる。仲がよすぎて気味が悪い、などと言う。小学校から仲のよかった彼女たちと私は同じ地元の中学に進学した。今もいちばん親しい友達だ。でも親友と呼ぶほどではない。それは当然だろう。私には七葉がいる。

真由のところはお兄ちゃんと年がら年じゅう喧嘩しているそうだ。顔見るのも嫌だよ、なんて言ってるくせに、ほんのところはそうでもないんだと思う。だってお兄ちゃんのサッカーの試合を応援に行っている。

未知花ちゃんも弟としよつちゅう喧嘩になると言う。些細なことで喧嘩が始まり、些細すぎて原因を忘れてしまうのだそうだ。だから五分後にはまたふたりでふざけて笑ってるんだよね、と言う。

10 うちは、そのどちらとも違う。喧嘩はほとんどしない。その代わり、原因はいつもはっきりしているし、一度喧嘩になったらどちらかが謝らない限り終わらない。そうして、私が覚えていいる限り、七葉が謝ったことはない。①最後に必ず私が謝ることになる。原因がいつも私にあるのかといえは、そういうわけでもない。七葉と喧嘩している時間は苦痛で、でも謝らなければ終わらないことはわかっている、だから謝る。喧嘩を終わらせたいから、それだけだ。どうして謝るのかと訊かれれば、そうとしか答えようがない。七葉のほうも、謝られればそれで気が済むらしく、その後はまだ拗ねたり文句を言ったりしたことはない。

15 私だって、喧嘩の最中は腹が立って、謝ることなど微塵も考えないし、むしろ今日こそ謝るもんかと思っている。だけど最後はやっぱり誘惑に負ける。ごめんね、という言葉の口にする瞬間まで、喉元に意地が引つかかかって脈を打っているのに、ご、と発

音した瞬間、固まりが雪崩のように滑り落ち、代わりになんだか甘ったるい感じがこみ上げてくる。

20 ごめんね。七葉は何を謝っているのかわからない。ただ私は酔っている。このひとことで仲直りできるという期待と、安堵と、素直にそれを口にするのできる自分のしおらしさみたいなもの。七葉も、私が謝れば素直にうなずくけれど、きつと首を縦に振った瞬間に甘く湧き上がるものに気づいているに違いない。私こそごめん、と言った瞬間に七葉の目に涙が膨れ上がる。喧嘩の間に泣いたことは一度だつてないのに、私たちは、安手のクリスマスツリーの電飾みたいにぴかぴか光る感傷を満たす。そうして少しきこちなく元通りを始める。

25 喧嘩して満たされるのは私たちで、それを厄介にするのが祖母だ。祖母は私たちが喧嘩をしているとき、いつのまにか近くまで来てじつと耳をそばだてている。そして、喧嘩の内容ではなく、どちらが声を荒げたか、手を上げないか、先に謝るのはどちらか、何食わぬ顔をして窺っている。私たちはそれをどれほどうとうとしうと思つたか。夢中で喧嘩をしても、祖母の気配に気づくとどちらからともなく声をひそめた。それはもしかしたら祖母独特の喧嘩を諷めるやり方だつたのかもしれない。けれど、そういうときの喧嘩は、不完全燃焼の種火が残つたまま、いつまでも尾を引いた。ちゃんと最後までやらせて、と私たちは声に出さず願つた。謝る瞬間の、<sup>②</sup>あの切なく甘いドロップをちゃんと味わわせてほしかった。

30 一度だけ、最後までついに謝らなかつた。七葉も謝らなかつた。だから、決着のついていない喧嘩がある。もしかしたらあれが境目だつたのかもしれない。違ふかもしれない。七葉が父の店から離れた理由を私は何かと結びつけたがつている。

35 店にはいろんな品があつた。壺や皿や椀、鉢、勾玉や仏像の類、それから、何に使うのかわからないような、すすけた木片や、割れた陶器の一片などもあつた。これ、なんだろうね、なんだろうね、と言ひあいながら私と七葉は小さな土器の欠片を、撫でたり、裏返したり、日に透かしたりした。そうしているうちにその欠片が、身近な玩具みたいに親しみを帯びてきて、これをポケットに忍ばせておければなあと考えたりもするものだ。持ち歩いてどうするわけでもない。ただ、親しいものを身につけているうれしさだとか安心感だとかに憧れたわけだ。

生成の地肌きなりに、ところどころかすれたような雲が染め付けられた陶器の欠片があった。それを見つけたときは、なんだかぼんやりとした欠片だな、としか思わなかった。でもどうしてだか私たちはふたりとも、割れたビスケツトみたいなその欠片から目を離すことができなくなってしまった。これ、なんだろうね、うん、なんだろう、いつもと同じことを言いあいながら、<sup>③</sup>お互いの視線が小さな陶片の上に注がれ、そこで拮抗きつこうしているのを感じた。

40 先に手を伸ばしたのは七葉だ。思わず、といった感じで陶片の肌に触れ、それをそのまま掌てのひらに包んだ。一、二、三、四、五。b 固唾かたずをのんで、五、数えた。七葉は掌を開かなかった。

「なのちゃん、それ見せて」

<sup>④</sup>押し殺した声で私は言った。七葉は動かなかった。

「見せてよ」

45 七葉が小さく首を振る。私は七葉の掌を開かせようと、腕うでをつかんだ。七葉は握りしめた掌をおへその辺りに抱えるようにして丸く屈かがんだ。その頑かたなさにかつとなって私は七葉の背を押した。身体がぐらっと揺れ、それでも七葉は顔を上げなかった。背中をつかんで揺さぶった。

「見せて、私にも見せて」

夢中になって七葉の身体を揺らしながら私は叫んだ。

50 階段の音にも気づかなかった。組みあつていて、はつと顔を上げたときには、祖母が恐ろしい形相で立っていた。

「何をしているの」

私は大声で訴えた。

「なのちゃんが見せてくれないっ」

七葉は屈んだままだった。私は祖母に背を向け、七葉の肩かたをつかんでもう一度言った。



55 「それ見せてってば！」

すると祖母が言った。

「離れなさい、みっともない。店まで全部聞こえてきたよ」

「だって、七葉が」

「ほら、麻子も七葉も、離れて。七葉、手に持っているものを出しなさい」

60 七葉は出さない。頑がとして首を振る。

「七葉のものなの？」

「違うよ、ここにあったものだよ」

⑤ 私が言うと、祖母はため息をついた。

「何を取りあつてるのか知らないけど、ここにあるのは玩具じゃないんだよ。傷つけたら終わりだよ」

65 祖母は七葉の手をつかんで指を一本ずつこじ開け、中から陶片を取り出した。

「こんなもの取りあつてどうするの」

雲の絵の陶片を、眉まゆを上げて見る。少し手を遠ざけ、頭を後ろに引くようにして見る。そのとき、七葉が何か言った。くぐもつた、ちいさな声だったからよく聞き取れなかった。

「なんだったって」

70 祖母が訊き返したときだ。七葉はきつぱりと顔を上げて、言った。

「返して」

祖母の顔色がみるみる変わった。眉が上がり、唇くちびるがきゅつと結ばれた。

「まだ文句があるんなら、家を出て行きなさい」

涙が膨れ上がり、それがこぼれ落ちる前に、七葉は走って階段を降りていった。

75 私は呆気あきに取られていた。七葉は、返して、と言った。祖母はそれをただの反抗だと思ったみたいだけど、私にはわかる。あの

子はほんとうに返してほしいと思っただけだ。自分のものでもないのに、返せってどういうこと？

ひと目見て私もあの陶片に引きつけられた。だけど、返せとまでは言えない。所詮せけん、お店のもの、父のものだから、せめてあれが売れなければいいなあ、ずっとこの家にあつていつでも好きなときに眺められたらいいなあ、と願うくらいだ。

「麻子」

80 階段のほうを見ていた祖母が振り返り、落ち着いた声で言った。

「女の子の喧嘩はね、怒鳴どったり、叫んだりしたほうが負けです」

陶片のことを考えていた私は、祖母の言っていることが咄嗟とつさに飲み込めない。

「下にいたら、麻子の大きな声だけが聞こえてきたよ」

⑥「それって、私の負けってこと？」

85 祖母はうなずいた。

「どうして。七葉が取ったんだよ、最後は泣いて出ていっちゃったんだよ、なのに私の負けなの？」

「そういうものだから、覚えておきなさい」

どうして、と言いかけて、やめた。訊いても無駄だ。

悔くしかった。普段ふだだったら泣いていたかもしれない。⑦でも、今はそれどころではない。七葉の執着しやく心が私を打ちのめしてい

90 た。怒鳴どったから負け、叩たたいたから負けなんじゃない。欲しいものをあれほど欲しいと思える、七葉の心に私は負けている。

注 ※ 拮抗：互いに同じくらい力で張り合っていること。

問一 〜〜線部 a 「難を言うなら」、b 「固唾をのんで」の意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

a 「難を言うなら」

ア 複雑に考えるなら  
イ 欠点を挙げるなら  
ウ 難しく言うなら  
エ 本音を打ち明けるなら

b 「固唾をのんで」

ア うらやましく思いつつ  
イ 驚きで言葉が出ないまま  
ウ 夢中になって必死で  
エ どうなることかと緊張しながら

問二 線部①「最後に必ず私が謝ることになる」とありますが、それはなぜですか。本文中の言葉を使って三十文字以内で説明しなさい。

問三——線部②「あの切なく甘いドロップ」から感じとれる心情として**適当でないもの**を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「私」を許せなかった七葉の、「私」が謝ったと同時に湧いてきた、勝ち誇った気持ち。
- イ 七葉とようやく仲直りできたことで「私」の心にあふれ出た、温かく穏やかな気持ち。
- ウ 自分からは謝らなかった七葉の、「私」の謝罪を受け入れることで、安心した気持ち。
- エ 決して謝ろうとしない七葉に対して、素直に謝る自分を「私」自身が健気だと思ふ気持ち。
- オ 意地を張っていた「私」の、自分が謝ることで仲直りできるのではないかと期待する気持ち。

問四——線部③「お互いの視線が小さな陶片の上に注がれ、そこで拮抗している」とありますが、それはなぜですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 「私」も七葉も欠片に強い興味を持っており、どちらが先に手に取るのかを心の中で競っているから。
- イ 「私」も七葉も欠片に夢中になってしまったので、なぜこんなにも魅力的なのかをそれぞれが考えているから。
- ウ 「私」も七葉も欠片の正体は何なのかかわからず、その答えを探るために欠片をじっくりと観察しているから。
- エ 「私」も七葉も欠片を店にとどめておきたいと思っており、誰にも買われることがないように祈っているから。
- オ 「私」も七葉も欠片を欲しいと思っているが、取り合いせずに済む方法はないかどうか真剣に悩んでいるから。

問五 —— 線部④「押し殺した声で私は言った」とありますが、このときの「私」の様子の説明として最も適当なものを次の中

から選び、記号で答えなさい。

ア 七葉は欠片をすぐに返すはずだと信じていたが、ずっと握りしめたまま離さないで、厄介な祖母にこのことを知られないよう、できるだけ小声で七葉を注意しようとしている。

イ 七葉が欠片を自分にも見せてくれるだろうと期待していたが、独り占めしようとしているので、こんなことならば自分が先に取っておけばよかったと後悔している。

ウ ただの陶片の欠片なのに、七葉は手にした欠片を決して離そうとしないので、どうしてもそままでしてその欠片にこだわるのか、理由を問いただそうとしている。

エ 七葉が先に欠片を取ったことで、自分もそれを欲しいと思う気持ちがいっそう強くなり、どうにかして七葉から欠片を奪い返してやろうとむきになっている。

オ 七葉が欠片をすぐに返すかどうかを見守っていたが、そのような様子は見られないので、喧嘩に発展しないよう感情を抑えながら、見せてくれるように要求している。

問六

——線部⑤「私が言うと、祖母はため息をついた」とありますが、このときの「祖母」の様子の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 「私」と七葉の喧嘩の勝敗をどのようにしてつけようかと、事のいきさつを探っている。

イ 店のものを取り合うという、してはいけないことが原因で起こった喧嘩だと知り、あきれている。

ウ 欠片を頑なに返そうとしない七葉の意地っ張りな態度を、不思議に思っている。

エ 七葉と「私」が、陶片の欠片というつまらない理由で喧嘩していることを悲しんでいる。

オ 滅多に喧嘩をしない「私」と七葉を、どうやって仲直りさせようかと悩んでいる。

問七

——線部⑥「それって、私の負けってこと?」、——線部⑦「でも、今はそれどころではない」とありますが、それぞれの「私」の気持ちの説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 人の物を盗んだ七葉よりも、本当は欠片が欲しくても我慢した自分の方が正しいと思っている。

イ 自分の想いをまっすぐに貫き、はっきりと表明できる七葉の意志の強情さや頑固さに圧倒されている。

ウ 怒鳴ってしまった以上、祖母の言うとおりで自分の負けを認めるしかなく、絶望のあまりぼう然としている。

エ 祖母に負けを言い渡されるくらいなら、最初から自分が先に謝っておくべきだったと反省している。

オ 欲しいものを取って最終的には逃げ出した自分勝手な七葉の行動に、戸惑いを隠せずにいる。

カ 自分は欠片に手を出していないのに祖母から一方的に負けだと言われ、簡単に納得できずにいる。

問八 本文中に用いられている表現の特徴の説明として**適当でないもの**を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 17行目「固まりが雪崩のように滑り落ち」の「固まり」は、意地を張っていた「私」の口をついて出た、「ごめんね、という言葉」をたとえた比喩表現である。

イ 45行目「七葉が小さく首を振る。」く47行目「背中をつかんで揺さぶった。」では、短文の繰り返しによって、「私」と七葉の喧嘩が加速していく様子が描かれている。

ウ 50行目「恐ろしい形相」、72行目「眉が上がり、唇がきゅつと結ばれた。」といった祖母の表情の描写から、「私」と七葉の喧嘩を前にした際の祖母の厳しさが伝わってくる。

エ 会話を多用することで、登場人物の視点が「私」、七葉、祖母と、交互に移り変わっていく様子が表現されており、読者がどの登場人物にも共感しやすくなるように工夫されている。

オ 気の強い妹の七葉と、意気地のない姉の「私」の性格を対照的に描き、七葉との関わりの中で生まれた「私」のさまざま  
な心情が分かりやすく表現されている。







問一	問一
⑤ 容姿	① しゃそう
⑥ 流域	② もう
⑦ 捨て	③ つど
⑧ 消息	④ 独創

問二	問二
① b	② c
③ d	④ b

問三	問三
(1) 資料1	資料2
ウ	(2) ウ
エ	カ

問一	問一
A	B
イ	エ
C	オ

問二	問二	
か	も	漢
ら	っ	字
	と	と
	も	ひ
	理	ら
	解	が
	し	な
	や	と
	す	カ
	い	タ
	日	カ
	本	ナ
	語	を
	の	交
	書	え
	き	た
	方	書
	で	き
	あ	方
	る	が

と筆者は考えている。

問三  
 キャンプ場が混雑している

問四	問四
(1)	(1)
か	日
が	本
一	語
定	の
し	単
て	語
い	に
な	は
い	、
も	漢
の	字
も	で
多	書
く	く
あ	か
る	仮
	名
	で
	書
	く

から。

(2)	(2)
自	特
分	定
が	の
伝	単
え	語
、	に
表	つ
現	い
で	て
き	は
る	漢
点。	字
	で
	書
	く
	場
	合
	と
	仮
	名

から。

問五  
 いいかげんに

問六	問六
(1)	(1)
漢	漢
字	字
の	の
学	学
習	習
、	、
に	に
と	と
の	の
目	目
的	的
(2)	(2)
ウ	ウ
(3)	(3)
オ	オ

問一	問一
a	a
イ	イ
b	b
エ	エ

問二	問二
終	喧
わ	嘩
ら	を
な	終
い	わ
か	ら
ら	せ
。	た
	い
	が
	、
	自
	分
	が
	謝
	ら
	な
	け
	れ
	ば

問三	問三
ア	ア
問四	問四
ア	ア
問五	問五
オ	オ
問六	問六
イ	イ

問七	問七
⑥	⑥
カ	カ
⑦	⑦
イ	イ
問八	問八
エ	エ

二〇二三年度

和歌山信愛中学校

入学試験 B日程

国語 (六〇分 一〇〇点)

受験上の注意

- 一 この問題冊子は1ページから23ページまであります。  
開始のチャイムが鳴ったら、確認して始めなさい。
- 二 受験番号は、問題冊子と解答用紙の両方に書きなさい。
- 三 解答は、すべて解答用紙に書きなさい。
- 四 終了のチャイムが鳴ったら、問題冊子の上に、解答用紙を開いたまま裏返して置きなさい。  
〈解答は、句読点や記号も一字分と数えて記入すること。〉

受験番号



【一】 次の問いに答えなさい。

問一 次の①～④の――線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。また、⑤～⑧の――線部のひらがなを漢字に直しなさい。

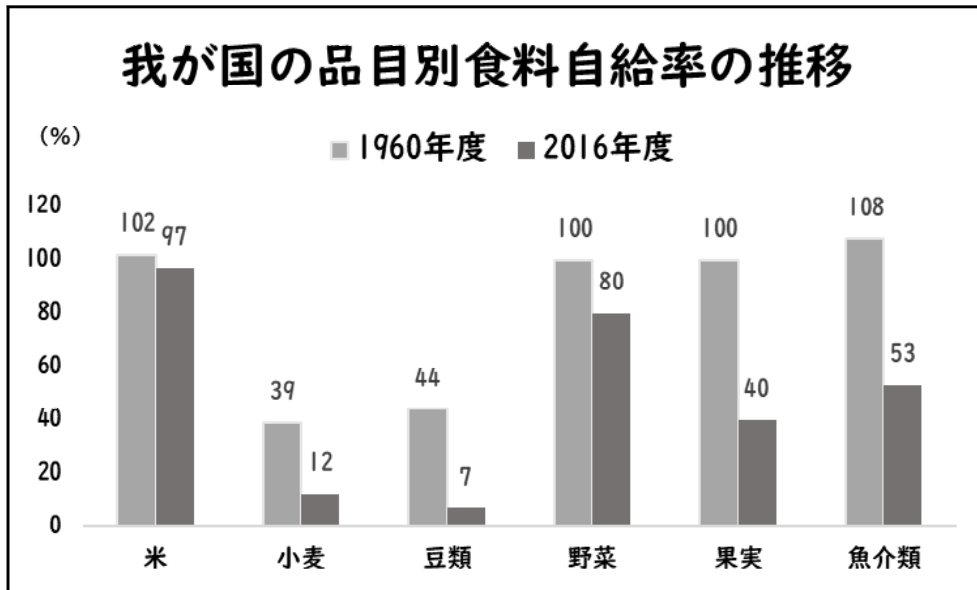
- ① 額にけがをする。
- ② 久しぶりに祖母の家を訪ねる。
- ③ 詳しい説明は省く。
- ④ アインシュタインはアメリカに亡命した。
- ⑤ 将来ゆにゆう雑貨店を経営したい。
- ⑥ 日本は世界四位のほうえき大国である。
- ⑦ 初日の出をおがむために山に登る。
- ⑧ 神様に新米をおそなえする。

問二 次の四字熟語の□にはすべて数字が入ります。数字の合計が大きいのはAとBのどちらですか、記号で答えなさい。

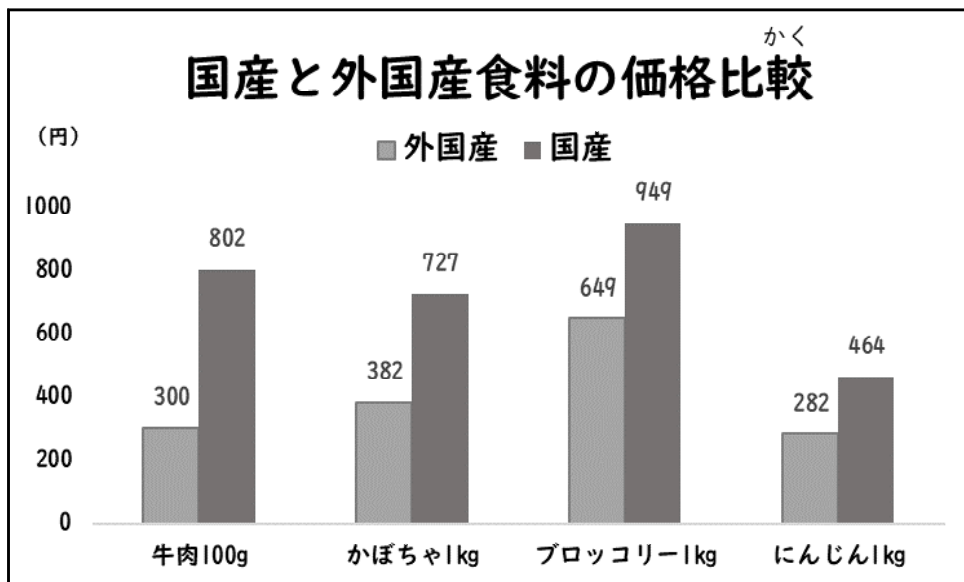
- |   |                    |                     |
|---|--------------------|---------------------|
| ① | B                  | A                   |
|   | 朝                  | 朝                   |
|   | □                  | □                   |
|   | 暮 <small>ぼ</small> | 夕 <small>せき</small> |
|   | □                  | □                   |
|   | ⋮                  | ⋮                   |
|   | 口先でこまかすこと          | わずかな時間のこと           |
- 
- |   |            |                      |
|---|------------|----------------------|
| ② | B          | A                    |
|   | □          | □                    |
|   | 苦          | 転                    |
|   | □          | □                    |
|   | 苦          | 倒 <small>たふさ</small> |
|   | □          | □                    |
|   | ⋮          | ⋮                    |
|   | ひどく悩み苦しむこと | 転げ回って苦しみもだえるようす      |
- 
- |   |            |           |
|---|------------|-----------|
| ③ | B          | A         |
|   | □          | □         |
|   | 差          | 発         |
|   | □          | □         |
|   | 別          | 中         |
|   | ⋮          | ⋮         |
|   | 多くの種類があること | すべて命中すること |
- 
- |   |                                    |          |
|---|------------------------------------|----------|
| ④ | B                                  | A        |
|   | □                                  | □        |
|   | 寒                                  | 人        |
|   | □                                  | □        |
|   | 温                                  | 色        |
|   | ⋮                                  | ⋮        |
|   | 寒い日と暖かい日が交互 <small>ご</small> に来ること | それぞれ違うこと |

問三 次の《資料1》《資料4》をもとに、クラスで食料生産について話し合うことになりました。資料を見て、後の(1)・(2)に答えなさい。

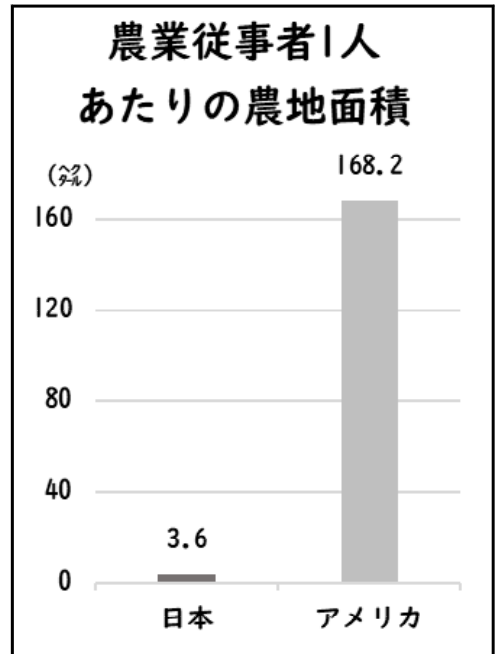
《資料1》



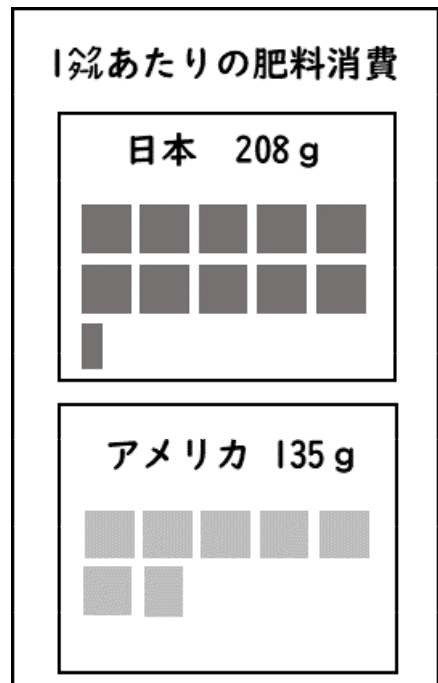
《資料2》



《資料3》



《資料4》



《会話文》

信子さん 《資料1》を見ると、約六十年で、日本の食料自給率は（①ア 上がっている・イ 下がっている）ことがわかります。和歌山で暮らしていると、地元の魚や果物を食べることが多いので、この結果には驚きました。

愛子さん 高齢化と後継者不足が原因で農家の数が減っていると勉強しました。でも《資料1》と《資料2》を合わせて考えるとそれ以外の原因がわかる気がします。

和子さん なるほど。《資料2》は、国産の食料の価格が外国産より（②ア 高い・イ 安い）ことがわかる資料です。私たちはつい安い方を買ってしまうから、国産の野菜が売れにくくなって、農業を辞める人がいると考えられます。そして、自給率も下がるといふ悪循環が起こっているんですね。

信子さん どうして価格にこのような差が出るのでしょうか。

愛子さん 《資料3》を見ると、アメリカは農業従事者一人あたりの農地面積が日本よりもかなり広いことがわかります。アメリカでは広い農地で効率よく大量生産することで、人件費なども抑<sup>おさ</sup>えることができていないのでしょうか。

和子さん 《資料4》は、アメリカの一ヘクタールあたりの肥料消費量が日本より（③）ア多い・イ少ない（④）ことがわかる資料ですね。

信子さん つまり、愛子さんと和子さんが言ってくれたことから考えると、（④）（③）とすることができそうですね。

(1) 《会話文》中の（①）（②）（③）に当てはまる言葉をそれぞれ選び、記号で答えなさい。

(2) 《会話文》中の（④）に当てはまるものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 日本は人件費は安いけれど肥料代が高くなるから、生産物の価格が高くなる

イ 日本は人件費は高いけれど肥料代が安いから、生産物の価格が安くなる

ウ 日本は人件費も肥料代も高いから、生産物の価格も高くなる

エ 日本は人件費も肥料代も安いから、生産物の価格も安くなる



【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

カーボンニュートラルとは、二酸化炭素を増やもしない、減らしもしない状態のこと。生物の活動は、基本的にカーボンニュートラルである。たとえば草食動物は、植物を食べて呼吸して二酸化炭素を排出するが、その二酸化炭素はまた植物の光合成の原料になる。だから草食動物が生きていても、地球の表層（地表面や大気など）を循環している炭素の総量に変化はない。これがカーボンニュートラルである。思えば、<sup>①</sup>原始時代の人間の活動もカーボンニュートラルだった。食物となる動物や植物を狩猟・採集していた原始時代の人類は、炭素の観点から見れば単なる雑食の動物に過ぎなかった。約一万年前に最後の氷河期が終わり、人間は農耕や牧畜を始めることとなった。しかしこれら第一次産業も、基本的にはカーボンニュートラルと言ってよいものだった。

<sup>②</sup>人類がカーボンニュートラルから大きく外れてしまったきっかけは産業革命だ。産業革命は、エネルギーの革命である。産業革命以前のエネルギーといえば、人力とか家畜とか水力とか薪とか炭とか、小規模かつ自然界に普通に存在するものだった。今風にいえば再生可能エネルギー。それが、地中から石炭や石油という化石燃料を掘り出して燃やすことによって、それまでとは比較にならない大きさのエネルギーが利用可能となり、人類は産業革命を達成したのだった。<sup>A</sup>交通手段に革命を起こした蒸気機関車、動力船、航空機などは、化石燃料に依存していた。

化石燃料とはその名のとおり、太古の昔に生息していた生物が化石になったもの。石油は水中のプランクトンの化石、石炭は陸上の植物の化石である。これらの生物は、生息時の大気から二酸化炭素を吸収し、それを何億年も地中に閉じこめてきたのである。そう、化石燃料は何億年も地表面の炭素循環から切り離されて存在してきたのだ。<sup>B</sup>それが人間の活動によって、何億年ぶりに大気中に解き放たれてしまった。

何億年も前、たとえば恐竜の生きていた時代、地球の気候はいまよりずっと暖かかった。その理由は複数考えられるが、その一つとして二酸化炭素濃度が高いため温室効果が高かったことがあげられる。生物はその時代から徐々に二酸化炭素を化石燃料

化していった。地球の平均気温は少しずつ低下していったのだ。僕ら現生人類（ホモ・サピエンス）が誕生したのはたかだか数千万年前。人間以外の現存生物もたいていは、数十万年程度の歴史しか持っていない。そう、人間を含めた、いま地球に生きている生物たちは、基本的に二酸化炭素濃度も気温も低い状況に適應しているのだ。

それなのに、二酸化炭素濃度が上がり、温暖化が進むとなると、たまったものではない。自然界の生物たちも、急激に温暖化した環境に適應するのは難しいだろう。だから、僕ら人間にとっても、生物にとっても、<sup>③</sup>温暖化は最小限にとどめたい。それを達成するのがパリ協定の目標である二℃の温度上昇であり、二〇五〇年までのカーボンニュートラルなのである。

二〇五〇年までに世界規模でのカーボンニュートラルを実現しなければ、パリ協定の目標である温暖化を二℃以内に抑えることが難しくなる。この本の読者のみなさんが、化石燃料に支えられた社会を経験する最後の時代、化石燃料から再生可能エネルギーへの轉換を目撃する世代になることだろう。C そうならなければ、未来はたいへんなのである。

たとえば北極。なぜいきなり北極の話題になるかというと、それは将来の温暖化が特に強烈なのは北極地方になると予想されているからだ。その原因はフィードバックである。フィードバックとは複数の要素が絡み合ってものごとに変化が生じること。具体的な例を考えてみよう。人間が排出する二酸化炭素で少し気温が上昇する。D、北極域を覆っている雪や氷が少し融ける。

雪や氷に覆われている面積が少し小さくなるし、雪氷に閉ざされている季節も短くなる。雪氷は色が白っぽいため太陽熱を反射し、地球を冷やす効果がある。しかし、温暖化で雪氷が融けると黒っぽい地面や植物が顔を出し、太陽熱を以前より多く吸収することになる。それは北極地方のさらなる温暖化を招き、そしてさらに多くの雪氷が融けて……。こういうことがループになって、北極地方の気温は温暖化に敏感に反応するのである。

北極地方のフィードバックには、生態系も強いかわりをもっている。北極地方の生態系は、二酸化炭素を少しずつ吸収しているのが特徴だ。北極域の土の中には永久凍土が広がっている。だから、土の中で有機物を分解する微生物の活性がとても低い。

ちように、冷凍庫の中では微生物が活動できず、食品が何ヶ月も腐らないのと同じ状況だ。北極の森は、夏はけっこう暑いので植物がどんどん生長して二酸化炭素を吸収する。吸収された二酸化炭素で作られた植物の枝や葉（有機物）は、やがて枯れて地面に落ちる。しかし土の中は夏でも寒いので微生物が有機物を分解しない。だから、北極の生態系には有機物がどんどん蓄積されていることになる。こうやって北極の生態系は、有機物を蓄積することで、大気中の二酸化炭素を減らしている。

では、地球温暖化によって永久凍土が融けたらどうなるだろう？ 冷凍庫から食品を取りだしたみたいに、土の中の有機物の温度が上がり、微生物によってどんどん分解されていくことになってしまう。するとこれまで長い年月をかけて蓄積されてきた有機物が二酸化炭素として大気中に出ていくことになり、温暖化をいっそう強めることになる。すると永久凍土の融解はさらに進み、二酸化炭素の放出もさらに増大する……。このように、生態系と気候が互いに影響を与え合い、温暖化をどんどん加速していくのが、④ フィードバックのおそろしいところだ。

北極の大きな変化は、わりとすぐ近くまでやってきている。このままいくと、二〇五〇年前後には毎年夏になると北極海の氷がすべて融けてしまう、なんてことも現実になってくる。そうなるとホッキョクグマの生息域が減少し、絶滅の危機が迫ることが考えられる。ほかに、北極地域の永久凍土が融けることで生態系にも人間の社会にも大きな影響が及ぶことが懸念されている。

たとえ話をしてみる。僕らがときとしてかかってしまう病気のことを考えてみよう。なるべく病気にかからないに越したことはない。病気にかかってから治療するのはなく、予防するのがベストということはみな同意することだろう。日ごろから節制し、心身を健康に保ち、しっかりと睡眠を取り暴飲暴食をしない……。これがいちばんなことはみな分かっているのだが、それでも病気になるときはかかる。もしも病気にかかってしまったら、症状が悪化してしまう前にできるだけ早く治療して根治するのが大事だ。たとえば、虫歯にならないように日ごろからしっかりと歯磨きをする。それでももし虫歯になってしまったら、どうするか。できるだけ早く歯医者さんに行って治療してもらおう。

しかし、このどちらもうまくいかなかったとき、僕らはどうしたらよいだろうか。完治できない病気にかかってしまったら。たとえば、虫歯が悪化して歯を失ってしまったら。そんなとき僕らは、病気や症状と「一生付き合っていく」という表現をする。たとえ根治は無理でも、病気の影響を最小限に抑えるために定期的に薬を飲んだり通院したりするのだ。歯を失った人は義歯を入れたりする。

⑤ この考え方は環境問題についても同様だ。しかし残念ながら、温暖化はたいへん深刻である。温暖化を「完治」して産業革命前の状況に戻すことは無理だ。「地球温暖化をとどめよう！」というスローガンをよく聞くけれど、もうそれは難しい。現実的なことをいうと、「地球温暖化を『最小限に』とどめよう！」ということになる。

I P C C 報告書にあるように、僕ら人類は、すぐがんばれば温暖化を一・五℃や二℃に抑えることができる。これからも環境に配慮しなければ、温暖化は五℃を超えてしまうことも考えられる。だから、未来のためになるべく温暖化を最小限にしようと僕らはがんばっているのである。

(伊勢 武史『2050年の地球を予測する―科学でわかる環境の未来』より)

問一 本文中の **A** と **D** に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、同じものを二度選んではいけません。

- ア すると      イ しかし      ウ たとえば      エ むしろ

問二 ―― 線部①「原始時代の人間の活動もカーボンニュートラルだった」とありますが、なぜそう言えるのですか。その理由を説明した次の文の [ 1 ] ・ [ 2 ] に当てはまる言葉を、本文中からそれぞれ五字以内でぬき出して答えなさい。

人間が [ 1 ] を排出しても、それは植物の [ 2 ] に利用される程度のもので、結果として地球の表層を循環する炭素の量は変化しないから。

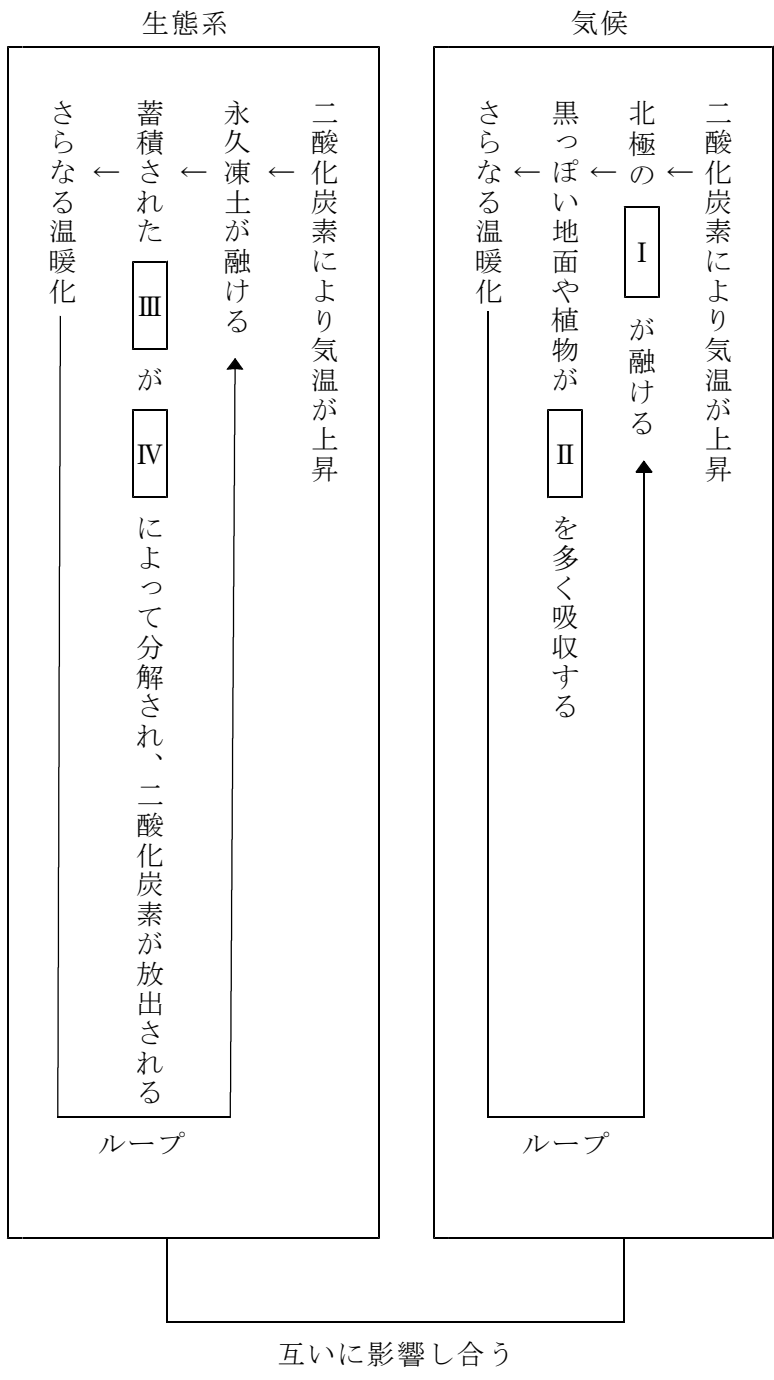
問三 ―― 線部②「人類がカーボンニュートラルから大きく外れてしまった」とありますが、人間のどのような行動によってカーボンニュートラルから外れてしまったのですか。それを説明した部分を、「〜という行動。」に続く形で本文中から二十五字でぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問四 ―― 線部③「温暖化は最小限にとどめたい」とありますが、これはなぜですか。本文中の言葉を使って六十字以内で答えなさい。

問五 ——— 線部④「フィードバックのおそろしいところだ」とありますが、これについて次の問いに答えなさい。

(1) 「フィードバック」について説明した部分を本文中から二十五字以内でぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。

(2) 北極における「フィードバック」について説明した次の図の **I**、**IV** に当てはまる言葉として適当なものをそれぞれ本文中からぬき出して答えなさい。



問六 ——— 線部⑤ 「この考え方」とありますが、これに当てはまるものを次の中から**すべて**選び、記号で答えなさい。

- ア 問題が起こる前に、原因を突<sup>つ</sup>き止めること。
- イ 問題が起こる前に、前もって対策をして予防すること。
- ウ 問題が起こったときに、早めに対応すること。
- エ 問題が起こったときに、見て見ぬふりをする事<sup>こと</sup>。
- オ 問題が解決できないとき、できるだけ影響を少なくすること。
- カ 問題が解決できないとき、全世界の人々が一致<sup>ち</sup>団結すること。

問七 本文を読んだ生徒が先生と会話をしています。会話文中の

1

2

に当てはまる言葉を本文中からそれぞれ

二十五字以内でぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。

先生 この文章を読んでみて、どんな感想を持ちましたか。

信子さん この文章では温暖化を止める大切さが述べられていたと思います。とても読みやすい文章でした。

愛子さん 私もそう思います。筆者がたくさん具体例を出したり、たとえ話をしたりしているから、理解しやすかったです。

先生 この文章の続きでは、筆者がさらにたとえ話をしていますよ。少し読んでみましょう。

交通事故で人命が失われないようにするため、自動車メーカーはアクティブセーフティとパッシブセーフティを考  
えている。アクティブセーフティは事故を起こさないためにできること。たとえば最近普及が進んでいる自動ブレー  
キがそうだ。運転手がたとえ居眠りしていたとしても車が自動的にブレーキをかけてくれたら事故を予防できる。し  
かし、それでもなお事故はゼロにはならないので、車には乗員や歩行者を保護するためにエアバッグが装備されてい  
る。このように事故が起こってしまったときに被害を最小限に食い止める手段がパッシブセーフティだ。

もしも自動車会社の技術者が「うちの自動ブレーキは百パーセント信用できるから事故は絶対に起きない。だから  
エアバッグは必要ない」なんて言い出したらどうだろう。その情熱はすばらしいけど、とてもあぶなっかしい。安全  
対策は、何重にもすべきなのだ。第一段階で防げなかった事故は、第二段階で深刻化を防ぐことが大事である。温暖  
化もこのように、温暖化を起こさないのであるが、いちばんだけ、温暖化した世界に対する適応を考えることも重要だ。

愛子さん 本文中の虫歯の話もそうでしたが、自動車の話もわかりやすいですね。



信子さん 「アクティブセーフティ」というのが、虫歯の例で言うところの1  
ということですね。

先生 そうですね。では「パッシブセーフティ」は虫歯の例で言うところのどうなりますか。

愛子さん 2 という部分が当てはまると思います。

先生 その通りです。難しい問題でも、具体例やたとえ話で身近に感じられますね。人に何かを説明するときには、こういう工夫  
をしてみるとよいでしょう。

【三】 次の文章は一九五二年に発表された安岡章太郎あおか しょうたろうの小説『宿題』の一節です。田舎いなかの小学校から東京に転校してきた「僕」ぼくは、慣れない環境でまごついていっているうちに夏休みになりました。次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

僕は銭湯で同級生の大熊君と会った。その子に変な声を出すし、その他やることは何でも大人にそっくりで、風呂ふろの洗い場でも、手ぬぐいを器用にしごいて背中をこすり、オケをぼんと叩たたいてパツパツと水をかぶる。学校でもわりあい出来る方で、おこられたことは一度もない。額が少しハゲあがっていて、その子が頭をふりながら先生の話の話を聞いているところは、まるでオジサンが一人いるみたいだ。大熊君は手ぬぐいをたたんで頭にのせ、目をつぶって湯につかっていたが、僕がどぶんと入っていくと、目を細くあけて、

「おめえ、宿題やったか。休みはきょうを入れてあと八日だ」

と言った。僕はびっくりした。僕はこの大熊君のひと言で突然東京の子の仲間に入れられたのだ。①宿題のもっている義務感が、はじめて僕につたわってきた。僕は小さな声で「まだ」と言っただけで、あとは何を話す元気もなくなった。聞いておきたい話はいっぱいあったはずだ。しかし部屋のすみに積みあげたまま、ほうり出してある宿題帳の山の厚みが、すぐ頭にきて他のことは何も考えることが出来なかった。家にかえると僕は、誰だれにも見られないように、こっそりと宿題帳をひらいた。眼めは、しかし、②活字の上をすべるだけだった。どんなことを書いてあるのかサッパリわからないまま、ただ大熊君の「宿題やったか？ あと八日」と言う声が耳にのこって、たいへんな事になったとアセるばかりだ。晩ご飯はスキヤキだったが、③肉が喉のどにつっかえて食べられない。「ネギを生で食べると頭がよくなる」と従兄いとこの重ちゃんが言ったのを思い出し、煮えかけのネギばかりよって食べた。ご飯がすむと、お膳ぜんのそばにのこっているのも落ちつかないが、二階に行くのも宿題帳があるのを思うと、イヤだった。第一、僕が晩ご飯のあとで電気をつけて机に向かっていると、お母さんが見ればきつと怪あやしむにちがいない。お母さんが東京の小学生を知らないのは僕以上だ。そして進学校にあこがれるのも僕以上だ。だから、この一行も書いていない帳面をみて、それが夏休みの

宿題だと知ったら、心配するのは僕以上だ。僕はいまさら勉強するわけにもいかなかった。

これはどうしてもテツヤするほかはない、と僕は考えた。テツヤというのは重ちゃんがよく言う言葉で、非常に威力があるように思われた。もちろん④秘密にしなければならぬので、僕は寢床ねじこの中で父と母が寝静しずまるのを待った。すっかり音がしなくなったら、こっそり起き出してまず物干し台へ上がって深呼吸しよう。それから、それから、と想像をしながら暗い部屋で眼をあけて待っているのだが、いつまでも話し声がきこえたり、あたりは静まらない。……僕は目をちよつと閉じることもある。しかし、眠りはしない。だが安心して起き出せるほど静かにならないうちに眠ってしまい、目覚めたら朝になっていた。不思議に物干し台にはカンカン日があたっている。毎朝僕は、物干し台に上って空を見ながら、失敗した計画を思つてタメ息をついた。

一日ごとに日は短くなる。夕方のくるのが早くなるのがぼくにも解わかった。僕は、もう二階で寝ころんでいてナマケモノに見られるのがおそろしく、せつせと外で遊ぶフリをしながら、夜のくるのを待った。⑤暗くなるときの気持ちはなんとも言えないものだ。消えてしまった一日のために、それだけ荷の重くなる宿題と、近づいてくる嫌いやな勉強の時間のこととで、僕の胸はあたりの空気が同じくだんだん黒くなっていく。晩ご飯がすむと、もう早速、僕はふとんの中だ。夜中に起き出す冒険ぼうけんのことを考えると、イライラして、起きてはいられなかった。ふとんの中で眼をさますために、チューインガムをぐしゃぐしゃかんでいると口の中におってくるハツカのおいで、ふと、ついこの間までのなまけていられたことがかえってなつかしく思い出された。

僕がたった一しゅん間眼をつぶるうちに、もう日は次の日にまたがり、たちまち学校の始まる日はあと一日に迫せまった。その日の午後、僕は近所の大工の子とケンカした。僕はなぐられて血を出した。あんな大ゲンカはこれまでやったことがなかった。その子は、もう中学に行っていたが、ふだんから僕が「※島津しまづさん」で遊あそんでいると、ときどきフラリとそばに来ては、冗談じょうたんを言って、またすぐツマらなさそうにどこかへ行ってしまう。僕は島津しまづさんの柿かきの木にのぼって、サルカニ合戦の話を出していた。僕は野球はやらない。大勢でやっている、打つ番が来ても、みんな忘れたフリをして僕をとばしてしまう。しかし、そのことは何で

もない。困るのは、そのときにお母さんがそばを通りかかることだ。誰にも相手にされずボンヤリ立っているのを、知っている人に見られるくらいイヤなものはない。それを用心して僕は、さも面白そうに枝にまたがって青い柿をちぎって投げた。気がつくくと、あの大工の子が汚きたない着物をきて帯に手をはさんで、下から僕を見上げている。何故なぜだろう？ とつぜん腹が立ってきて、僕は、ちぎった柿をガリガリかんで、ツバといっしょに吐はき出した。その子は何か言った。

「かき食くつてのけえ」

たぶんそう言っていたのかも。しかし、そのときは「カキケケコ、カキケケコ」としか聞こえず、その子の **どがめ** るような眼つきに腹が立った。僕は夢中で飛びおけると、ハダシのままその子に組みついた。大工の子は、はるかに強かった。崩くずれかかったレンガの塀へいのそばの、でこぼこした地面の穴ボコに僕は組みふせられてしまった。脚あしをふんばって、馬乗りになっている子を下からハネかえそうとするが、力を入れても入れても、肩かたが柔やわらかい土の中にメリ込んで行くだけだ。ツバをひっかけようとしたら口の中へ赤土のかたまりを押しこまれた。鼻はなの穴も耳の穴も、眼の中も、顔じゅう土だらけになった。ようやくハネとぼしたと思つたときは、その子はもう立ち上がって、騒さわぎたてる子ども達を尻しり目に帰かへりかけるところだった。⑥ **僕は石をつかんで後から二三発、投げつけたが当たらなかった。**

シャツの袖そでは肩から切れてなくなり、体は血と泥どろまみれになって、痛みよりも母にいいわけするのがつらかった。しかし、母は、怒るよりもさきにアキれていた。僕はその間にサツサとお金をもらって風呂屋ふろやに行った。

夏休みの最後の日は、電車通りにある善光寺のエン日にあたっていた。日が暮れるとゾロゾロはげしい人通りだ。父は留守で、僕は見物に出かけた。

善光寺の本堂は立ちこめるお線香せんこうとロウソクの炎ほので、全体が花火のように浮うき上がって見えた。僕は、お母さんの手を引っぱって歩きながら、まるで酔よっぱらったようにシャベリどおしにしゃべった。何と軽率そうなことだろう。あれほど警戒かいしていたくせに、友達のことから、学校のことまで作りごとをまぜながら一生懸命けんめい話していた。境内けいだいには夜店よていが行列けつしていた。鈴すずのついたオマモリ袋ぶくろ

や、新発明の大根オロシ器は、つまらなかつたが、シャープペンシルに気をひかれた。赤と青のシンが普通の文房具店で売っているのはちがつた仕掛けで出てくるやつで、色眼鏡をかけた人が箱のなかから一本一本、大事そうに取り出しては、どんな風にならなくてもラクに書けることを示すために斜にもったり真つ直ぐにもったりしながら、マルや三角のウネウネまがつた線をひっきりなしに書いていた。いつまでも見ようとする僕を母が引ッぱつたが、あきらめにくかつた。

「あんなのがあると地図をぬるとき便利なんだがなア」

⑦ 効果はあつた。しかし、お母さんはまだ手をフトコロの中の財布までもって行くのをためらっていた。僕は手をゆすぶりながら、つい言った。

「宿題になつているんだよ」

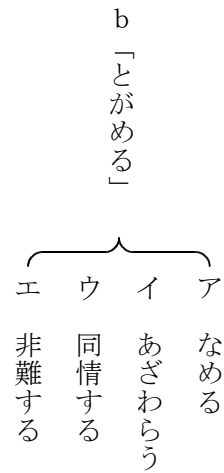
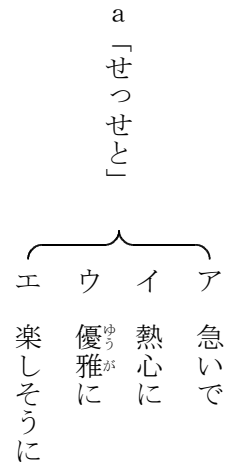
お母さんは僕を見た。もう、少しだ。僕はヤツキになつて考えずに言った。

「ウンと出ているんだ。夏休みの宿題がこんなにあるんだ」

金を出しながら母の眼は急に、けわしく光りだした。ようやく僕は苦心して掘つたオトシ穴の中に自分からはまりこんで行くのを知つた。もう一刻もはやく家へ帰りたかつた。ただそれだけだ。

注 ※ 島津さん…近所の空き地。

問一 〜〜線部 a 「せっせと」、b 「とがめる」の意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。



問二 〱線部① 「宿題のもっている義務感」とはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 宿題をやらないと、友達に責められるのだということ。
- イ みんなの分まで宿題をやらなければならないということ。
- ウ 宿題がものすごくたくさん出されるものだということ。
- エ 宿題は絶対にやらなければならないものだということ。
- オ 夏休みが短くて宿題をやる時間がないということ。

問三 ── 線部② 「活字の上をすべるだけだった」とはどのような状態のことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ほとんど頭に入っていない状態。

イ やつとの中で内容が理解できる状態。

ウ 難しい字が全くないという状態。

エ 読めない字ばかりがあるという状態。

オ 内容がすらすらとわかる状態。

問四 ── 線部③ 「肉が喉につつかえて食べられない」のはなぜだと考えられますか。説明しなさい。

問五 ——— 線部④ 「秘密にしななければならない」とありますが、なぜ「秘密」にしななければならないのですか。その理由の説明

として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 宿題をやったという僕のうそがお母さんに知られると、がっかりされるにきまっているから。

イ 僕が勉強している姿をお母さんが見ると、宿題をやっていないことに気づき心配するから。

ウ お母さんにテツヤで宿題をしていることが知られてしまうと、身体に悪いと叱しかられるから。

エ お母さんは公立の学校にあこがれているが、僕は全然興味がなく、勉強をしたくなかったから。

オ 夏休みの宿題の内容がさっぱりわからない僕の馬鹿ばかさ加減がお母さんにバレてしまうから。



問六 —— 線部⑤ 「暗くなるときの気持ちはなんとも言えないものだ」とありますが、このときの「気持ち」の説明として最も

適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 夜が来て、あたりが暗くなると、またナマケモノと思われなかったために、父と母が寝静まるのを待たなければならぬと辛く感じてゐる。

イ 夜が来て、あたりが暗くなると、またテツヤをするふりをして、お母さんをだませるのだと思い、心がおどる気分になつてゐる。

ウ 夜が来て、あたりが暗くなると、一日が過ぎるのがとても早いと思い、時の流れの早さにはかなさを感じ、さみしくなつてゐる。

エ 夜が来て、あたりが暗くなると、今日こそ宿題をしていないことがお母さんにバレるかもしれないと思い、びくびくしてゐる。

オ 夜が来て、あたりが暗くなると、また一日が終わり、宿題をやらなければならぬ時間が近づいてゐると思つて憂うつになつてゐる。

問七 ——— 線部⑥ 「僕は石をつかんで後から二三発、投げつけたが当たらなかつた」とありますが、このときの「僕」の気持ち

の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 大工の子が予想外に強かつたことに対する驚き<sup>おどろ</sup>。

イ 大工の子にこてんぱんにやられたことに対する悔しさ<sup>くや</sup>。

ウ ケンカをして泥だらけになつたことに対する罪悪感。

エ ハネとばしたはずが起き上がつていたことに対する恐怖<sup>きょうふ</sup>。

オ ケンカする場所が悪くて負けたことに対する怒り<sup>いか</sup>。

問八 ——— 線部⑦の「効果」とはどのような効果のことだと考えられますか。説明しなさい。

問九 ——— 線部⑧ 「苦心して掘ったオトシ穴の中に自分からはまりこんで行く」とありますが、これはどういうことですか。そ

の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア うまいこと言つて、エン日で欲しいものを買ってもらおうとしたが、うまくはいかなかったということ。
- イ がんばって母に甘えてみたが、母に演技を見破られてしまい、かえって怖い顔を向けられたということ。
- ウ なんとか先のばしにした宿題のことがバレてしまい、しぶしぶやらなければならなくなったということ。
- エ 一生懸命バレないようにしていた宿題のことを、お母さんに自分からバラしてしまったということ。
- オ 夏休み最終日にまとめて宿題をしようとしたが、エン日に行くことになり、宿題ができないということ。

問十 文章から「僕」はどのような人物だと考えられますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 一見気が弱そうだが、ここぞという時は勇気をふりしぼり、困難に挑戦していく強い性格。
- イ あまり人とは行動せず自分なりの考えを持っているが、意志が弱く、嫌なことからは逃げる性格。
- ウ 誰に対しても優しく、どんな時でも決して人には心配をかけまいとする思いやりのある性格。
- エ いつも明るく活発で、何事にもものおじせず誰とでも仲良くできる裏表のない性格。
- オ 少しでもチャンスがあれば、人をだましておとし入れてやろうと狙っているがしこい性格。

受験番号

問一	【一】
⑤	①
⑥	②
⑦	ねる
⑧	む
え	く
⑧	④

問二	【二】
①	①
②	②
③	③
④	④

問三	【三】
(1)	(1)
①	①
②	②
③	③
(2)	(2)

問一	【二】
A	A
B	B
C	C
D	D

問二	【二】
1	1
2	2

問三	【三】
S	S
という行動。	

問四	【四】
(1)	(1)
(2)	(2)

問五	【五】
(1)	(1)
S	S

問六	【六】
I	I
II	II
III	III
IV	IV

問七	【七】
1	1
2	2
S	S

問一	【三】
a	a
b	b
問二	問二
問三	問三

問四	【四】
----	-----

問五	【五】
問六	問六
問七	問七

問八	【八】
----	-----

問九	【九】
問十	問十

受験番号

【一】

⑤	①
輸入	ひたい
⑥	②
貿易	たずねる
⑦	③
拝む	はぶく
⑧	④
供え	ぼうめい

問二

①	B
②	A
③	B
④	A

問三 (1)

①	イ
②	ア
③	イ

(2)

ウ
---

問一

A	ウ
B	イ
C	エ
D	ア

問二 1

二	酸	化	炭	素
---	---	---	---	---

2

光	合	成
---	---	---

問三 地中から石くして燃やすという行動。

問四

温	度	い
暖	も	ま
化	気	地
し	温	球
た	も	に
環	低	生
境	い	き
に	状	て
適	況	い
応	に	る
す	適	生
る	応	物
の	し	は
は	て	、
難	い	二
し	て	酸
い	、	化
か	急	炭
ら	激	素
。	に	濃

問五 (1)

複	数	の	要	素
---	---	---	---	---

く

生	じ	る	こ	と
---	---	---	---	---

(2)

I	雪氷(雪や氷)
II	太陽熱
III	有機物
IV	微生物

問六

イ	ウ	オ
---	---	---

問七

1	虫	歯	に	な	ら
く	磨	き	を	す	る
2	で	き	る	だ	け
く	し	て	も	ら	う

【三】

問一

a	イ
b	エ

問二

エ
---

問三

ア
---

問四 宿題のことが気になって、あせっていたから。

問五

イ
---

問六

オ
---

問七

イ
---

問八 お母さんにシャープペンシルを買う気にさせる効果。

問九

エ
---

問十

イ
---

--

二〇二三年度

和歌山信愛中学校

入学試験 A日程 (午後)

# 作文 (五〇分)

受験上の注意

- 一 問題用紙の他に、解答用紙、下書き用紙があります。開始のチャイムが鳴ったら、確認して始めなさい。
- 二 受験番号は、すべての用紙に書きなさい。
- 三 解答は、すべて解答用紙に書きなさい。
- 四 終了のチャイムが鳴ったら、問題冊子の上に、解答用紙と下書き用紙を開いたまま裏返して置きなさい。

受験番号

問 次の文章を読んで、あなたが感じたことや考えたことを六百字以内で述べなさい。

夢は、強い精神力と努力なしには叶えられません。だからこそ叶ったときは、感動的だし、いままでの苦勞が報われる、うれしい瞬間でもありません。

そして、ここまで自分の力で到達できたのだから、さらなる夢も叶えたい、というバネになるものです。

ですから興味のあることは、ひとつでも多くもったほうがいい、と私は思います。もてばもただけ、夢が広がってゆく可能性が生まれる。

しかし、せつかく叶えた夢も、途中で不幸な結果になることがあります。たとえば、プロ野球選手が突然の事故で体が不自由になったり、肩を壊したり、手をケガしてボールがもてないといったことで、選手生命が断たれてしまう場合も起こりえます。

予想もしない出来事に、奈落の底に突き落とされたような気持ちになるでしょう。でも、そこで人生が終わりだとは思わないで、別の興味あることに目を向けていくことができれば、生きる勇気がまた湧いてくると思うのです。

私がここで言いたいことは、自分の好きなことを多くもっていることによって、もし一番の夢が断たれてしまっても、希望を託せる次の夢があれば、その夢によって自分が救われることもある、ということなんです。

ですから、強く望む夢はひとつであっても、ほかに候補となる好きなもの、興味のあることをいくつか育てておく、ということなのです。

話が横道にそれてしまいましたが、夢は見るものではなく、実現させるものです。「絵に描いた餅」で終わっちゃいけません。お雑煮にするなり、あんころ餅にするなり、食べて楽しむことまでしないと。

そのためには強く夢を見る。成功のイメージがなかったら、実現はありえません。思いが強くなればなるほど、実現の可能性は高まるはずです。

「棚からぼた餅」を待つのではなく、自分からその夢をめざして行動を起こしてほしいです。

( 假屋崎 省吾 『自分の世界をもちなさい』より )





二〇二三年度

和歌山信愛中学校

入学試験 C日程

# 作文 (五〇分)

受験上の注意

- 一 問題用紙の他に、解答用紙、下書き用紙があります。開始のチャイムが鳴ったら、確認して始めなさい。
- 二 受験番号は、すべての用紙に書きなさい。
- 三 解答は、すべて解答用紙に書きなさい。
- 四 終了のチャイムが鳴ったら、問題冊子の上に、解答用紙と下書き用紙を開いたまま裏返して置きなさい。

受験番号

問 次の文章を読んで、「人に何かを勧めること」について、あなたの感じたことや考えたことを六百字以内で述べなさい。

読んだ本がおもしろかったら、友だちに手紙を書く。いや、実際に手紙を出さなくてもいい。もし手紙を出すとしたら、という仮定で書いてみる。

人にものを勧めるのはむずかしい。自分がおもしろいと思ったからといって、他人もそう思うとは限らない。人はそれぞれ違うから。感覚や好みの違いもあるし、考え方の違いもある。

でも、感覚や好みが違う人に、考え方も違う人に、この本のおもしろさを伝えたいというとき、どうするか。

なぜ、自分がおもしろいと思ったかを書く。書くために考えなきゃならない。なぜおもしろいと思ったのか。おもしろいと思ったのはどこなのか。

書き方にも注意しなきゃいけない。「おもしろいから読めよ」といわれて、人は読む気になるだろうか。自分が手紙を受け取った場合を考える。勧められる側になって考える。

勧められて悪い気はしない。知らなかったおもしろいものの存在を教えてくれるのはありがたい。でも勧め方にはいろいろある。ちょっと高みに立った感じで、人を見下ろすような感じで「キミは知らないだろうが、こんなおもしろいものがあるんだぜ。こういう本を読んでいるオレはえらいだろう。オレのことを尊敬しろ」という雰囲気（ぶんき）がむんむんだと、ちよっとおもしろそうだなと思いつつながら、「ケツ。読むものか、そんな本」と思ってしまう。

嫌われない勧め方、不快にさせない勧め方を考えよう。

（ 永江 朗 『本を味方につける本』より ）

